

総務の 365日

経営リスクにつながる 重要物の紛失対応について

執筆：『月刊総務』編集長 豊田 健一

企業には、犯罪、自然災害、事故や過失による損失や漏えいなどが起こった際に、企業の事業継続を揺るがすような重要情報をはじめ、多くの資産が存在しています。中でも、安全を確保して保護しなければならない経営資産は保護対象資産といわれ、業種や業態によって独自に特定しなければなりません。それら保護対象資産は重要度に応じて3段階またはそれ以上に分類し、保管方法や盗難・紛失時の対応策など、予め決めておく必要があります。

重要度分類の基準は、業務への影響度に応じて分類します。具体的には、従業員に配布された社内規則類・作成途上の資料など、業務への影響が少なからずあると考えられるものを「重要度1」、業務への影響範囲が広く、影響度合いも大きいと想定されるものを「重要度2」、業務への影響が企業としての事業継続まで影響が想定されるものを「重要度3」となります。「重要度3」に分類される資産は、具体的には、①高額な現金・有価証券、②社印・代表社印・銀行印など、③重要書類・電子媒体または情報通信機器（法令で保存が定められている書類、個人情報データ、経営にかかわる計画書・財務データ、事業活動における重要書類、新規開発製品・研究開発関連書類など）が挙げられますが、見落とされがちなのが実印などの重要物を盗難・紛失した場合の対応策です。PC・携帯端末等の情報機器の紛失対応とは異なる法的対応や、各機関への届け出などが必要となりますので、そのポイントを押さえておいてください。

法人の実印

法人の実印が紛失、盗難にあった場合は、印鑑証明書の交付を受けられないようにするため、すぐに実印登録を行っている法務局に「紛失届」を提出します。

印鑑証明書を不正に取得されると本人になりすまして犯罪などに使用されてしまう可能性があるからです。実印の押印してある契約書に印鑑証明書が添付されていると、例えば盗難にあった実印が押印された契約書であっても、その効力を否定することは大変困難です。

次に、法務局へ改印届を出し、新しい印鑑を実印として登録します。こうすれば、万一、それまでの実印が不正に使用されたとしても、その責任を負わされるリスクは回避できます。その後、古い実印や古い印鑑証明書が悪用されないように、警察へ「紛失届・盗難届」を提出します。

しかし、実印は悪用されると取引先や契約先に迷惑をかけることにもなりかねませんので、関係先や取引先に対して改印した旨を連絡し、会社名義での注文書や領収書等が偽造されるのを事前に防ぐ必要があります。

印鑑カード

印鑑カードが紛失、盗難にあった場合は、法人代表者印（法務局に届け出た印）を押印した「印鑑カード廃止届書」で紛失したカードを廃止し、新たに発行されるカードの交付を受けるための「印鑑カード交付申請書」を提出します。

印鑑カードがあれば法務局に提出するだけで印鑑証明書が入手できますので、印鑑証明書を不正に入手されたり、印鑑証明書の印影から実印を偽造されたりすることを防ぐ必要があります。

銀行印

銀行届出印が紛失、盗難にあった場合は、すぐに銀行に連絡します。その印鑑が悪用されそうになったときは、銀行側でしかるべき対応を取ってくれますので、悪用を未然に防ぐことができます。あわせて、警察へ「紛失届・盗難届」を提出しておきます。

手形・小切手

手形・小切手が紛失、盗難にあった場合は、すぐに振出人は取引銀行へ連絡し、「手形・小切手事故届」を提出します。事故届を提出できるのは、支払銀行と取引のある振出人に限られます。あわせて警察署へ「紛失届」もしくは「盗難届」を提出する必要もあります。

取引銀行に支払い停止措置をとってもらっている間に、管轄の簡易裁判所に公示催告の申立てを行い、その手形・小切手が無効である旨の除権判決を受けなければなりません。除権判決を受けると、その手形と小切手は無効になります。

預金通帳

預金通帳が紛失、盗難にあった場合は、口座を開設している金融機関に連絡し、預金口座の停止を依頼します。その後、取引銀行に「喪失届」を提出します。届出の場合は身分証明書の提示が必要となりますが、法人の場合は、法人登記簿謄本、抄本、印鑑登録証明書などが必要となります。手続きが完了すると、新たな通帳が届きます。



豊田 健一

『月刊総務』編集長

●早稲田大学 政治経済学部 卒業 ●株式会社リクルート入社 経理、中途採用媒体の営業、総務、販売会社の計数管理を担当 ●株式会社魚力入社 総務課長として本社移転、株式公開を経験 ●ウィズワークス株式会社入社 日本で唯一の総務専門誌「月刊総務」の編集に携わり、社内広報の研究とコンサルティングも担当 ●2012年6月より、「月刊総務」編集長、ナナ総研主任研究員に就任。

お客様の

声



アイデックスラボラトリーズ株式会社様
〈オフィス移転の狙い〉

①組織間の連携を高めて

コミュニケーションを活性化したい。

②成長する日本市場において優秀な人材を確保したい。

■ 執務スペース：コミュニケーションの活性化と生産性の向上を目指した空間へ。



個人作業に集中しやすい環境を整えつつも、デスクの島間に、丸テーブルを配置。振り向くとすぐに部署間でコミュニケーションが取れるように工夫。



生産性向上に大きく関わるイスは、実際に業務をする社員に、複数の候補の中から座り心地等確かめてもらい、投票により決定。

Wizard2



お客様の
声

移転後の従業員サーベイのスコアが、移転前より向上したことから、移転の効果を実感しています。



お客様の
声

以前よりも魅力的な職場環境になったことで、優秀な人材を採用しやすくなりました。今後もWEBページを強化した採用活動を進めていく予定です。

■ コミュニケーションスペース：用途に応じたコミュニケーションスペースを用意。



社員の不満の声が多かった会議室に関しては、数を増やし、部屋ごとにテーマカラーを取り入れる遊び心を。



カフェテリアは、ランチタイムや休憩時に利用できる人気のスペース。壁のデザインも社員投票にて決定。



アメリカ本社が「Wellness」を重要視しており、ヨガなどが出来るウェルネスルームも設置。現在その他のプログラムを検討中。

■ 受付スペース：ブランドイメージを訴求できるスペースへ。



受付・来客スペースは、マーケティング部を巻き込んで、オフィスでもブランドイメージを伝えられるようなデザインへ。



エントランス奥の来客ゾーンには製品を展示。来訪者に分かりやすいように、製品の 카테고리 に合わせたファブリックパネルを用意。



お客様の
声

全社の表彰制度において、社員の声を活かしたオフィス作りが評価され、本プロジェクトが表彰されました。



社員の声を取り入れることで、「エンゲージメント」がさらに向上しました。

※エンゲージメントとは、会社は社員の能力を引き出すための環境整備を行い、社員はそれに応じて最大限の成果を発揮するという意味

お客様情報

アイデックスラボラトリーズ株式会社

所在地：東京都杉並区和泉1-22-19

設立年：1993年

従業員数：122名

事業内容：動物のヘルスケア・健康衛生・および水質管理における検査機器
ならびに診断関連サービスの提供。

KOKUYO

コクヨ株式会社

201511A02FN

2015-316